

# 子ども自身が創意工夫して遊ぶ

主体的な遊びの中の学び

子どもが興味・関心を持ち「やってみたい」と遊びに向かう…。子ども自身が考え、選択し、試行錯誤する…。子ども同士が互いに思いや意見を伝え合いながら遊びが展開されていく…。保育者は、その子どもの興味・関心・思考をさらに引き出すために環境を整え、見守り、言葉かけを行う…。

このように、主体的な遊びや体験を通じて行う乳幼児教育が求められるようになってきています。

子ども自身が興味・関心のあることをテーマとして、友達と一緒に創意工夫して進めていく活動は、小学校以降の学びの土台となる好奇心や探究心、主体性、そして社会性といった「学びに向かう力」が育つことが期待されています。

実際に子ども達の様子の変化として、「自分の思いを明確に伝えられるようになった」「自分で考えて遊びに変化を加える姿が見られるようになった」「自分から選んだやりたい遊びを十分に楽しめることで生き生きと登園している」などの声が現場から届けられています。

子ども達で考えて相談しながら一つのものを作っています  
(タンポポハウス 公開保育より)

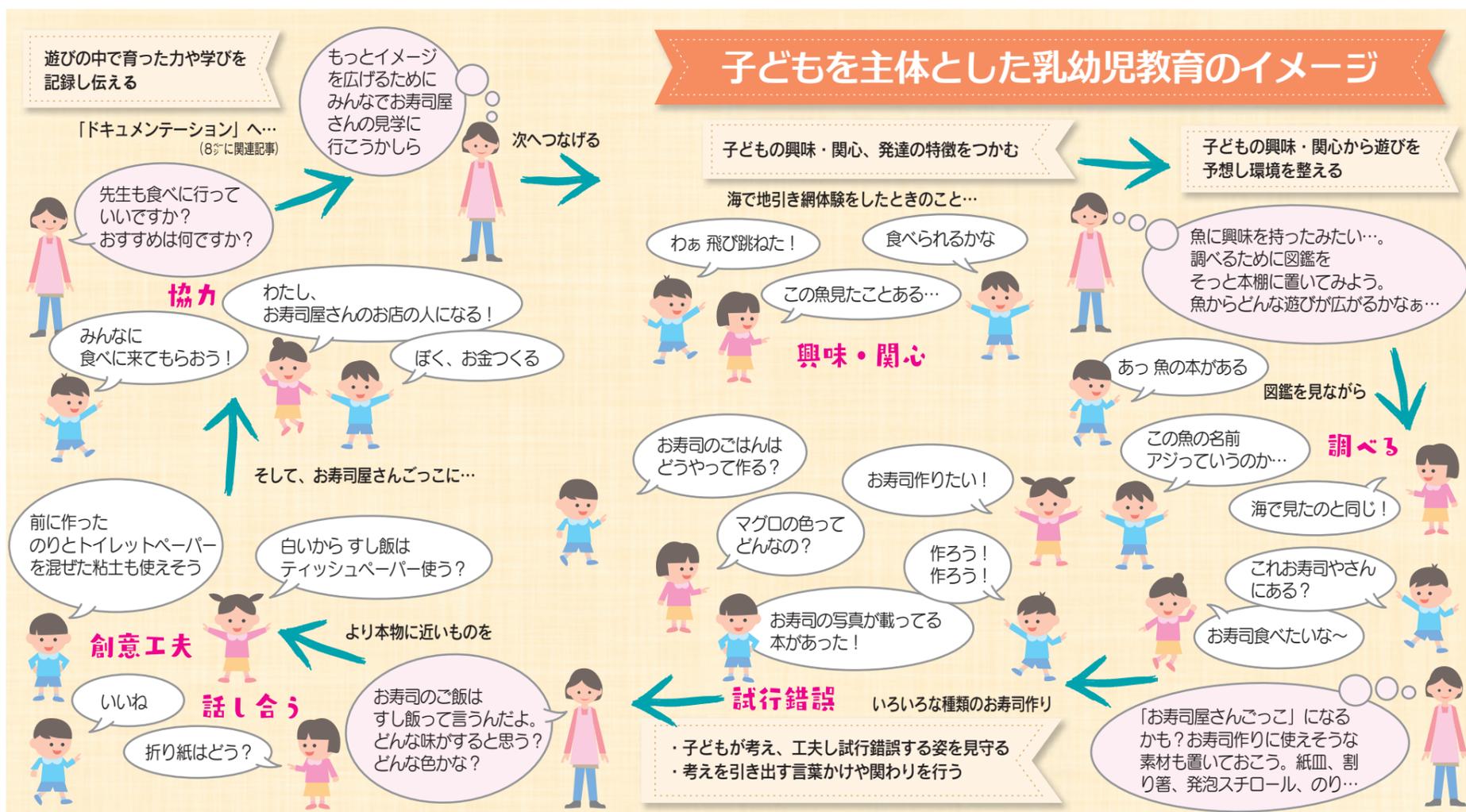


## 保護者懇談会 アンケートより

子ども達の様子を見て、探究心にあふれた姿に感動した。子ども達の「なぜ？」という気持ちや「やってみたい！」という気持ちをとてども大事に、実際に体験し、学ばせていただき感謝しています。

親から見ると「遊び」でしたが、その中にいろんな「気付き」や「学び」があることが分かった。

## 子どもを主体とした乳幼児教育のイメージ



## 質の高い乳幼児教育を進めるために

子どもを主体とした乳幼児教育について公開保育を中心とした研修体制のもと、市内のさまざまな保育所や幼稚園の保育者が共に学び合っています。

公開保育では指導案を作成し、それに基づき実践を公開。その後、実践者と研究者、他園の保育者が内容について検討します。こうした取り組みが乳幼児教育の質を高めることにつながります。この公立・私立の保育所・幼稚園が共に学ぶ研修は、全国から注目されている先進的な取り組みです。



▲さくら保育園での公開保育



▲公開保育後の事例検討

## 現場からの声



岡田保育園

「集まる保育」から子ども自ら「集まる保育」への転換を進めています。子どもを主体とした保育を実践するために保育環境を見直し、子どもの姿や学びを可視化するエピソード記録も残すようにしました。

興味のあることや好きな遊びに夢中になる子ども達。やりたい遊びや目的がはっきり決まると通園もより楽しみにしています。

可視化することでクラス便りや写真などを見ながら保護者の皆さんとの会話も増え、保育への関心も高まっています。

子どもの姿・つばやきを捉え、遊びを深く読み取ることは難しく感じています。が、豊かな乳幼児期の経験が小学校への学びにつながることを認識して、乳幼児期だからこそできる遊び、「集まる保育」を実践していきたいと思っています。

## 現場からの声



東山保育園

繰り返し研修を受けつつ保育を実践していく中で、発達を促した玩具やその配置・種類・数など、環境を変えていくと、子ども達は自分自身で考え工夫する力が付き、次の遊びへの意欲が感じられるようになりました。

保育者も子どもを見る視点が変わり、子どもが考えるような言葉かけ、関わり、ときには一緒に遊んで遊ぶことで、さらに遊びが発展し、保育の充実につながりました。

また、運動会や発表会も子どもを主体とした活動にすることで、子ども達の意欲や取り組み姿も変わってきました。

言葉だけでは伝えきれない子どもの姿はドキュメンテーション(8ページに関連記事)を通して保護者に伝えること「出来栄よりも、その過程で子どもが育っていることが分かった」といった感想をいただいています。